

■2016年センター倫理本試験分析

54.0% 49.0%

大問	全国ベネッセ	講座	問	講座正答率	正解	自己解答	配点	長生現役正答率	全国正答率	全国講座差	
1 青年と現代	53.7%	66.5%	1	63	3		3	27	37	△ 26	D+
			2	75	6		3	36	47	29	D
			3	100	4		2	55	73	27	M
			4	50	2		3	27	54	▲ 4	D
			5	75	2		3	64	61	14	M
			6	38	3		2	36	48	▲ 10	D
			7	38	1		3	9	15	23	D+
			8	75	4		3	73	81	▲ 6	E
			9	63	6		3	64	57	6	M
			10	88	5		3	64	65	23	M
2 思想の源流	54.5%	68.3%	11	50	6		3	36	49	1	D
			12	63	2		3	73	64	▲ 1	M
			13	88	2		2	82	59	29	M
			14	75	4		3	18	13	62	D+
			15	88	2		3	73	80	9	M
			16	75	3		2	46	46	29	D
			17	100	1		2	55	71	29	M
			18	63	4		3	55	74	▲ 11	M
			19	13	5		3	9	36	▲ 23	D+
3 日本思想	47.9%	58.7%	20	50	1		3	55	32	18	D+
			21	25	4		2	73	33	▲ 8	D+
			22	63	7		3	36	30	33	D+
			23	75	3		3	46	53	22	D
			24	88	1		3	46	60	29	M
			25	63	3		3	64	59	4	M
			26	38	4		2	27	37	1	D+
			27	63	2		3	64	70	▲ 7	M
			28	63	2		2	55	57	6	M
4 西洋思想	61.6%	57.2%	29	63	1		2	55	71	▲ 8	M
			30	88	3		2	46	65	24	M
			31	38	1		3	36	62	▲ 24	M
			32	38	2		3	73	73	▲ 35	M
			33	50	7		3	36	33	17	D+
			34	75	5		3	55	72	3	M
			35	50	3		3	55	57	▲ 7	M
			36	25	5		3	36	49	▲ 24	D
			37	88	4		2	73	73	16	M

2016年センター本試験

解答と解説

提出者 8 名

受講者平均 61.5
 全国平均 51.84 (標準偏差15.42)
 長高卒業生平均 54.0(12人)

1	D+
40	D
55	M
80	E
90	E+

difficult
middle
easy

第1問 《「公平」をめぐる考察》

問1 正解は③

- ① 適当。遺伝子組み換え技術によって人間に有用な作物を作ることができるようになったが、安全性の問題や生態系のバランスに与える影響が指摘されている。
- ② 適当。着床前診断によって受精卵が親の望まない遺伝情報をもつとわかった場合、命の選別が行われる可能性があり、優生思想につながるものが懸念されている。
- ③ 不適。パーソナリティ（人格）は、能力・気質・性格の3要素から構成され、遺伝的要素と後天的な要因の両方に影響を受けながら形成される。クローン技術を用いて人間を作り出したとしても、完全に同じ性格の個人になるわけではない。
- ④ 適当。遺伝子診断によって発症可能性を予測し、病気の予防や治療を行うことができるが、その前提としてプライバシーへの配慮が求められる。

問2 正解は⑥

ア 青年期における自我のめざめを「第二の誕生」と呼んだのはルソー。

ピアジェはスイスの心理学者で、子どもの脱中心化の過程を明らかにした。

イ 京都に同志社英学校を創立した新島襄についての説明。

福沢諭吉も渡米経験の後、慶應義塾を創立したが、キリスト教には関係がない。

ウ 井上哲次郎は明治・大正期の哲学者で、教育勅語の注釈書を著し、教育界にも大きな影響力を与えた。内村鑑三の「不敬事件」では、天皇制に基づく国家主義の立場からキリスト教をはげしく攻撃した。

美濃部達吉は大正期に天皇機関説を主張した憲法学者。

問3 正解は④

- ① 不適。「回避」ではなく代償が正しい。
- ② 不適。「投射」ではなく合理化が正しい。
- ③ 不適。「逃避」ではなく抑圧が正しい。
- ④ 適当。近道反応も欲求不満を解消する方法の一つであるが、原因が解決されたわけではない。

NOTE 欲求不満への反応

合理的解決	努力によって原因となっている問題を解決する
近道(攻撃)反応	八つ当たりや暴力など衝動的な行動をとる
防衛機制	無意識のうちに心の安定を図ろうとする(抑圧・合理化・代償など)
失敗反応	欲求を環境に合わせて満たすことができず、欲求不満の解消に失敗する(神経症や自殺など)

問4 4 正解は②

- ①・③不適。1文目は資料文の「私たち各々が最初から…課税前所得なるものがあるわけではない」に相当するが、①「元来、課税前所得のすべては政府のもの」、③「所得は、すべての国民に対して均等に分配されなければならない」という内容は資料文中にはない。
- ②適当。1文目は資料文の「その財産保有の適法性は、租税も含めたシステム全体の公正さを検討することでしか、評価され得ない」に相当する。また2文目は資料文の「私たち各々が最初から『もって』おり、政府が私たちから公平に取り上げなければならないような、課税前所得なるものがあるわけではない」に相当する。
- ④不適。租税システムが公正であるかどうかは、市場での経済上の取引の結果によって決定されるという内容の選択肢。しかし、資料文には、租税を含めたシステム全体の公正さを検討することでしか、財産保有の適法性は評価できないと述べられている。経済上の取引の結果によって租税システムの公正さが判断されるわけではない。

問5 5 正解は②

- ①不適。図1より、英国とスウェーデンは「身分・家柄・親の地位」と「個人の才能」の合計が「個人の努力」の割合より大きい。
- ②適当。図1より、「学歴」が「社会に出て成功するのに最も重要な要因」と回答したのは英国の13.1%が最高であり、他の項目と比べると低い。
- ③不適。図1・図2からは成功要因と昇給・昇進の方法との関連性までは読み取れず、「個人の努力」の結果が必ずしも成績に反映するとは言い難い。よって、成績を中心に昇給や昇進を決めるのが望ましいと考える割合が高いとしても、「努力の度合いが昇給・昇進に直結すべきだと考える傾向が高い」とは言えない。
- ④不適。図2より、3文目が誤り。日本では、「昇給・昇進について成績を重視すべきだと考える割合」(44.6%)は「勤務年数を重視すべきだと考える割合」(37.1%)よりも高い。

問6 6 正解は③

アファーマティブ=アクション(積極的差別是正措置)とは、マイノリティや女性など、これまで差別され不利な立場に置かれていた人に、雇用・入学などで積極的に優遇的措置をとること。

- ①不適。「人種やジェンダーの差異」を積極的に承認するという点が誤り。
- ②不適。就職の機会を保障する措置であるが、結婚の機会の保障は関係がない。

- ③適当。差別が解消されるまでの「暫定的な措置」である。
④不適。「根絶不可能な構造的差別を不断に是正するため」の「恒久的な措置」ではない。

問7 正解は①

- ア 正。ハンス=ヨナスは世代間倫理の先駆者。人間は未来世代と自然の存続に責任をもち、環境破壊を止めなければならないと説いた。
イ 正。1955年にラッセルはアインシュタインらとともに核兵器廃絶を訴えるラッセル=アインシュタイン宣言を発表した。
ウ 正。シュヴァイツァーは、人間には生きんとする意志をもった生命を守るべき責任があると説いた。

問8 正解は④

- ①不適。「ボランティア活動が高まった」とはいえ、「公的な福祉制度・サービス」を充実させる必要性は今後さらに求められる。
②不適。1995年の阪神・淡路大震災を機にボランティア活動が社会的に広がったことから、この年をボランティア元年と呼ぶようになった。
③不適。インドで献身的な奉仕活動を行ったマザー=テレサについての記述。レイ=チェル=カーソンは海洋生物学者。『沈黙の春』で、農薬の使用が環境破壊を引き起こすことを警告した。
④適当。ボランティアの説明として正しい。世界ボランティア宣言(1990年採択)では、ボランティア活動を「個人が自発的に決意・選択し、人間の潜在能力や日常生活の質を向上させ、人間相互の連帯感を高める活動」と定義している。

問9 正解は⑥

コミュニタリアニズム(共同体主義)とは、個人を共同体との関係で捉え、共同体全体の善(共通善)を重視する立場。この立場を代表するサンデルは、ロールズの原初状態における「無知のベール」をかぶらされた個人を「負荷なき自我」と批判し、コミュニティの伝統や文化を背負った成員たちが討議を通して共通善を追求する社会をめざした。

- a 資料文の2～3行目に、では社会を「自由で独立した個人の集合体」として捉えると述べられているので、自由主義が入ることがわかる。
b 超自我は精神分析学の用語。道徳が内面化したもので、自我を抑制する。
c 最高善とは究極目的としての善のこと。アリストテレスは最高善を幸福と捉えた。また、新プラトン派やキリスト教では神を最高善と考える。

問10 [10] 正解は⑤

A・Bの立場をまとめると次のようになる。

A：家庭環境の違いによって生じる差は不公平ではない。不運な人に対しては民間の慈善団体の自主的な救済にまかせればよい。

B：家庭環境の違いによって生じる差は不公平であり、機会の平等を保障するため、税制を通じて国が不公平を是正すべき。

Aは家庭環境によって人生に有利・不利が発生することは不公平ではないと考えているので、アのAについての記述「家庭環境に恵まれずに不利な人生を送る人がいるのは不公平」が誤り。またBも、個人の人生に対する責任を国が肩代わりすべきとまでは言っていない。イ、ウは正しい。

第2問 《規範の意義》

問1 [11] 正解は⑥

孔子は内面的な **a 仁** の心を礼に表すべきであり（克己復礼），その実現をめざして励む者を **c 君子** と呼んで理想的人間とした。根源的な愛である仁は，親や兄弟への自然な愛情としての孝・悌，自分を偽らない **b 忠**，他者の気持ちになって考える恕，他者を欺かない誠実な心としての信など，様々な形で表現される。真人とは荘子が理想とした人間像で，自然の道と一体となった自由な境地に生きる者のこと。

問2 [12] 正解は②

ア・イ 正。シャリーアは、『クルアーン』を根拠にしたイスラーム法。宗教的儀礼から日常生活全般にわたって，ムスリムが守るべき掟が定められている。

ウ 誤。五行とはムスリムが実践すべき宗教的義務で，信仰告白・礼拝・断食・喜捨・巡礼である。瞑想は含まれない。

問3 [13] 正解は②

①不適。国家が人々の契約の上に成立するという「社会契約」は近代の発想。

②適当。ソクラテスが求めたのは「善く生きること」である。脱獄は不正であり，いかなる理由があっても不正を行うべきではない。また，ポリスの市民として国法に従うべきだと考えて刑を受け入れた。

③不適。ソクラテスは「人々に正しいと思われる」かどうかを気にしていたわけではない。むしろ，反発を恐れず，人々の無知を暴き出した。

- ④不適。ソクラテスは、人間が幸福になるには、自己の魂が優れたものになるように気遣うこと（魂への配慮）が必要だと考えた。

問4 [14] 正解は④

- ①不適。無自性とは、存在するものは固定的な実体をもたないことをいう。また、仏教では、存在するものは固定的に捉えてはならないこと（諸法無我）を真理とするので、固有の本性を見出すという趣旨の選択肢はおかしい。
- ②不適。四苦の生・老・病・死のうち、「死」とは死ぬことそのものであり、「死を日の当たりにすること」ではない。
- ③不適。貪（貪欲）・瞋（瞋恚）・癡（愚痴）を合わせて三毒という。三帰とは、仏（ブツダ）・法（仏の教え）・僧（僧侶）に帰依すること。
- ④適当。仏教では、存在するものを構成する五つの要素（五蘊）が苦悩の源になっている（五蘊盛苦）と考えられている。

問5 [15] 正解は②

ストア派は、宇宙の理法（ロゴス）は万物すべてを貫いていると考える。キケロもこの考えに基づき、「正邪の区別」を行う人の世の法律は、万物の根源である自然が表現されたものであり、自然に従う限りにおいて「悪人を罰し善人を守護する」というものと資料文で述べている。これをまとめたものが②となる。

- ①不適。1文目は正しいが、人間によって自然が管理されるという2文目の内容は資料文に反する。
- ③不適。1文目は、自然に従って定められた法律こそ、「善人と悪人を公正に裁く」ことができるという資料文の趣旨に反する。またストア派は、自然は人間にも理性として宿っていると考えるので、2文目は誤り。
- ④不適。法律は自然に従うだけでは善悪と正邪を区別することはできないという1文目は誤り。また「豊富な知識や経験」に基づかなくても、自然を範としていれば法律は正しいものとなる。

問6 [16] 正解は③

イスラエル人は、自らを神から選ばれた民族であると信じ（選民思想）、神ヤハウェから与えられた律法に従うことで、神から祝福が与えられ救済されるという信仰をもつ。律法の中心となる十戒は、宗教的義務と道徳的義務からなり、イスラエル人がエジプトを脱出した際、シナイ山で預言者モーセを通じて神から与えられたとされる。

- ③不適。「エジプトに移り住む際の心構えとして」という部分が誤り。

問7 [17] 正解は①

- ① 適当。「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」は山上の垂訓で説かれた教え。イエスの黄金律と呼ばれる。
- ② 不適。イエスは、サドカイ派やパリサイ派たちの形式的な律法主義を批判した。
- ③ 不適。「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」は『新約聖書』「マタイによる福音書」の中のイエスの言葉。
- ④ 不適。安息日とは一切労働をしてはならないと定められた日。これを守ることがユダヤ教で重視されたが、イエスは安息日に病人を癒し、形式化した律法を守ることよりも、神の愛を実践することが神の御心にかなうと説いた。

問8 [18] 正解は④

- ① 不適。万物は一者（ト=ヘン）から流出したと考え、一者に合一することをめざしたのは新プラトン派の立場。
- ② 不適。イスラーム教では偶像崇拜は厳しく禁止されており、アッラーの姿を「形にして崇拜」してはならない。
- ③ 不適。宇宙の究極的原理である絶対者（梵）^{ブラフマン}と個人の本質（我）^{アートルマン}が同一であること（梵我一如）を直観するために修行するというのは、ウパニシャッド哲学の教え。世親（ヴァスバンドゥ）は大乗仏教の唯識思想を体系化した人物。
- ④ 適当。道家の思想家である莊子は、人為的な対立や差別は相対的なものに過ぎず、ありのままの世界はすべてのものが齊しい^{ひと}価値をもつ（万物斉同）と説いた。自然の道と一体となって^{しょうようゆう}逍遙遊の境地に生きる真人を理想的人間とした。

問9 [19] 正解は⑤

- ア 誤。「個々の生に価値を認めることなく」という部分が誤り。規範や法は、個人の生と社会を律する役割を果たすものとして必要であると本文の第2段落にある。
- イ 正。第3段落には、仏教では煩惱から逃れるために「戒めや修行徳目」が定められ、ストア派は理法（ロゴス）に従って生きることによって「真の自律を確立する」と考えたとある。
- ウ 正。トーラーとは律法のこと。第3段落で、ユダヤ教では律法の順守が救済につながると述べられている。またイエスは、「律法のなかでも、神への愛と隣人愛が重要である」とし、「愛の掟を実践することによって、人間は神の永遠の命のなかに生きることができると説いた」とある。2文目は同じく第3段落の「このように、私たちの…理解されている」という部分に相当する。

第3問 やや難 《日本人が求めた喜びとは》

問1 20 正解は①

- ① 適当。農耕の邪魔をし祭祀を妨げるといふスサノヲの行いは、共同体の秩序を妨害する行為を罪とした古代日本人の倫理観を象徴している。罪や穢れは物品を献上することなどで祓い去ることができる。とされる。
- ② 不適。スサノヲは高天原を追放された後ヤマタノヲロチを退治したが、「反逆の罪」の償いとして誰かに命じられたわけではない。また「清明心」を証し立てたのは、高天原で最初にアマテラスに会ったときである。
- ③ 不適。妻であるイザナミに会いに黄泉国に行き、穢れを川で清めて禊を行ったのはイザナギである。
- ④ 不適。スサノヲは「草木を切り払い、鳥獣を襲う」という行いはしていない。

CHECK 黄泉国から逃げ帰ったイザナギが川で禊を行ったとき、左目からアマテラス、鼻からスサノヲが誕生し、アマテラスは高天原で祭祀を行う存在となる。荒々しい性格の弟スサノヲが姉アマテラスに会いに来ると、アマテラスはスサノヲが清明心をもっていることを確認して高天原に入ること許す。ところがスサノヲが乱暴をはたらいたため、怒ったアマテラスは天の石屋戸に籠もってしまった(岩戸隠れ)。追放されたスサノヲは出雲で八俣の大蛇を退治し、その地の統治者となった。

問2 21 正解は④

- ① 不適。「天皇は神聖にして侵すことのできない神」であり「忠孝」に基づいて「天皇に奉仕する」という考えは、教育勅語で説かれた。
- ② 不適。柳田国男が『先祖の話』で述べた祖霊信仰の内容。
- ③ 不適。共同体の外部から訪れる来訪神を「まれびと」と名づけたのは折口信夫。
- ④ 適当。和辻哲郎は、アマテラスは人々から「祀られる神」であると同時に、他の神の祭祀を行う「祀る神」でもあると指摘した。

問3 22 正解は⑦

- a 国分寺などでは、『金光明経』が鎮護国家のための経典として尊重された。判断が難しいが、『維摩経』が『法華経』『勝鬘経』とともに聖徳太子が『三経義疏』で注釈を加えた経典であることから、消去法で導くことができる。
- b 鑑真は奈良時代に唐から来日し、僧侶の資格を与えるための授戒制度を整えるのに尽力した。
三宝とは、仏・法・僧のこと。聖徳太子が十七条憲法の中で「篤く三宝を敬え」と説いている。

- c. 空也は念仏を唱えて諸国を遊行し、庶民を中心に布教した。
叡尊は奈良の西大寺で真言律宗を復興した鎌倉時代の僧。

問4 23 正解は③

法然と親鸞の思想の共通点として正しいものを選ぶ。

- ①不適。親鸞のいう悪人とは、煩惱にとらわれて自らの力では悟りを開くことができない人のことであり、悪行を犯した者ではない。
- ②不適。「阿弥陀仏の姿を実際に見るかのように思い描く」ことを観想念仏という。これに対し、法然は「南無阿弥陀仏」の名号を唱える称名念仏を修行方法とした。
- ③適当。親鸞は法然の他力本願の信仰をさらに進め、信心さえもすべては阿弥陀仏のはからいによるもの（自然法爾じねんぼうに）であるという絶対他力の考えに到達した。
- ④不適。法然は称名念仏を往生のための唯一の手段としたのであって（専修念仏）、「あらゆる行をすべて放棄し尽くした果て」に信心が得られるというのは誤り。

問5 24 正解は①

- ①適当。儒教の立場では、仏教は世間を捨てることを説くが、結局は自分が極楽往生することを願う点で自分の楽しか考えていないとして、仏教の出世間主義を批判する。選択肢の2文目は資料文の「第一に身の樂を思ふ心をも捨てて」「名教中に自然の樂地あるべし」に相当する。
- ②不適。自分の往生よりも主君や親の往生を先に願うべきという記述は資料文中にない。
- ③不適。資料文では、自分の樂を求めることを批判している。また、主君や親とともに樂を分かち合うことを勧める記述は資料文中にない。
- ④不適。親や主君を捨てた罪を贖あがなうべきであるとの記述は資料文中にない。

問6 25 正解は③

本居宣長は、儒学が素直な感情よりも道理を優先し、人間の自然な感情を抑圧しているという理由で批判した。よって、③が適当である。

- ①不適。日本と中国の価値観の差を儒学が無視しているという内容の選択肢。
- ②不適。個人の価値観の違いを儒学が無視しているという内容の選択肢。
- ④不適。本居宣長は、善悪という価値観は儒学や仏教によってもたらされたものであるとし、これを排除して真心（「よくもあしくも生まれつきたるままの心」）に従うことを理想とした。

問7 [26] 正解は④

- ①不適。『三太郎の日記』を著した阿部次郎に関する記述。彼は、真・善・美を求め、人格の向上をめざす人格主義を説いた。
- ②不適。戦後に『墮落論』で人間本来の姿に戻ることを説いたのは坂口安吾。
- ③不適。文芸批評というジャンルを確立した小林秀雄に関する記述。
- ④適当。武者小路実篤は白樺派の作家。夏目漱石とトルストイに影響を受けて理想主義・人道主義を掲げ、理想郷を求めて「新しき村」を開村させた。

問8 [27] 正解は②

純粹経験とは、主観と客観の区別の意識がない状態のこと。イの我を忘れて没頭している状態がその例としてふさわしい。

ア. 周りの歌声と自分の歌声を区別したり、ウ. 幼少期の自分を振り返っているのは、分析的・反省的に自分を把握していることになる。

問9 [28] 正解は②

本文の内容に合致する選択肢を選ぶ。本文全体の趣旨だけではなく、各段落の細部の記述までチェックする必要がある。

- ①適当。本文第2段落の内容に相当する。アマテラスが天の石屋戸に籠もったとき、八百^{やおよそ}万の神が「新たに貴い神を迎えて喜ぶ様を演じ」ることで「アマテラスを誘い出し」、「天地に光が戻」ったと述べられている。
- ②不適。本文第3段落には、「仏の道に従ってこそ確かな喜びが得られる」とあり、喜びそのものは必ずしも否定されていない。また、仏の道に背いた場合、「仏によって苦しみが与えられる」とは書かれていない。
- ③適当。本文第4段落で、「天の道理」にかなう生き方に喜びがあると説いた人物として、儒学者の林羅山や報徳思想を唱えた二宮尊徳が取り上げられている。
- ④適当。本文第5段落の内容に相当する。「自己の欲望の実現を超えて他者を愛することに喜びを見いだす」ことを主張した西田幾多郎や、個性の成長や完成に愛の意義を認めた有島武郎が紹介されている。

第4問 標準 《時間をめぐる西洋近現代思想の流れ》

問1 29 正解は①

- ①不適。ボッカチオが著したのは『デカメロン』。『カンツォニエーレ』はイタリアの人文主義者・詩人のペトラルカの作品。
- ②適当。レオナルド=ダ=ヴィンチは、数学や解剖学の研究に裏付けられた遠近法の技術を駆使して「モナ・リザ」「最後の晩餐」などの作品を制作した。
- ③適当。アルベルティは、建築・音楽・哲学など多方面に才能を発揮したイタリアの代表的万能人。『家族論』で合理的な経済活動に基づく利潤の追求を説いた。
- ④適当。ダンテの『神曲』は、ラテン語ではなくトスカナ地方の方言で叙述されたところに人文主義の萌芽を見ることができる。

CHECK 古代ギリシア・ローマの古典文化の再生をめざすルネサンスでは、あらゆる分野に能力を発揮する万能人が理想の人間像とされた。「人は欲しささえすれば何でもできる」というアルベルティの言葉にルネサンスの人間観が表れている。

問2 30 正解は③

- ①不適。惑星が太陽のまわりを楕円軌道を描いて運動することを発見したのは、ドイツの天文学者ケプラー。
- ②不適。万有引力を発見して古典力学を確立したのは、イギリスの数学者・天文学者ニュートン。
- ③適当。イタリアの科学者ガリレイは、慣性の法則や自由落下の法則（落体の法則）を発見した。『天文対話』で地動説を説いたが、宗教裁判にかけられ撤回した。
- ④不適。汎神論的宇宙論を説いたイタリアの哲学者ブルーノについての説明。

問3 31 正解は①

- ①適当。ドイツの社会学者ウェーバーは、合理的な組織形態であるはずの官僚制（ビューロクラシー）が、逆に非合理的な結果をもたらしかねないことを指摘した。
- ②不適。フランクフルト学派のホルクハイマーとアドルノは共著『啓蒙の弁証法』で、人間を自由にするはずの啓蒙的理性が人を支配する道具的理性になってしまっていると指摘した。
- ③不適。フランクフルト学派第二世代を代表するハーバーマスの思想。「生活世界の植民地化」とは、コミュニケーションが行われる場（生活世界）が経済的なシステムに侵略され、植民地のように支配されていることを表現したもの。

- ④不適。労働とは本来、人間の本質的な喜ばしい活動であるはずが、資本主義社会のもとでは労働が苦役となっていることを指摘したのは社会主義者マルクス。

問4 32 正解は②

ドイツ観念論の哲学者カントの認識論についての理解を問う。

- ①不適。「内容なき思考は空虚であり、観念なき直観は盲目である」は著書『純粋理性批判』の言葉。時間・空間という形式をもつのは悟性ではなく感性である。悟性は、直観的な印象に思考の枠組みをあてはめて対象を構成する。
- ②適当。カントが従来の「認識が対象に従う」という理解のしかたを「対象が認識に従う」と180度転換したことをコペルニクスの転回という。
- ③不適。現象の背後にある物自体を認識することはできない。
- ④不適。カントは、「経験を超える事柄」については理論理性では判断できないが、実践理性に関わる領域であるとした。「私たちの経験を超える事柄」の「存在は否定されるべき」という部分が誤り。

問5 33 正解は⑦

経験論とは、認識の起源を経験（感覚）に求める立場。生得観念を否定し、観察と実験によって自然法則を導く帰納法を学問方法とした。ベーコンを祖とする経験論は、現実の生活での有用性を重んじるイギリスを中心に発達し、ロック→バークリー→ヒュームへと継承されていった。

ア アイルランド出身の哲学者バークリーについての記述。

イ イギリスの哲学者ロックについての記述。

ウ スコットランドの哲学者ヒュームについての記述。

NOTE 経験論の思想家とキーワード

ロック	生得観念を否定、経験する以前の状態は白紙（タブラ＝ラサ）
バークリー	観念以外の事物の存在を否定する唯心論、「存在するとは知覚されること」
ヒューム	因果関係の客観性を否定する懐疑論、自我は「知覚の束」にすぎない

問6 34 正解は⑤

キーワードの理解を中心としてニーチェの思想について問う問題。

- a ^{えいこうかいき}永劫回帰を入れる。永劫回帰とは、世界が無意味な永遠の繰り返しであること。
^{りんねてんじょう}輪廻転生は生死を繰り返すこと。輪廻転生の思想は、ウパニシャッド哲学や仏教思想、ギリシアのピュタゴラスなど様々な地域で見られる。

b 運命愛を入れる。運命愛とは、無意味な繰り返しである自己の運命を受け入れること。

自己愛とは自分の世界を愛して自己満足にひたること。また社会契約説を唱えたルソーは、生まれつきもっている自己保存を求める自然な欲求を自己愛と呼んだ。

c 力への意志を入れる。力への意志とは、つねに自己を成長させ、新しい価値を創造する意志のこと。

性の衝動は精神分析学の創始者フロイトの用語。無意識の層に潜んでいる根源的な欲望のこと。

問7 35 正解は③

人格の成長についてのベルクソンの理解を読み取る。

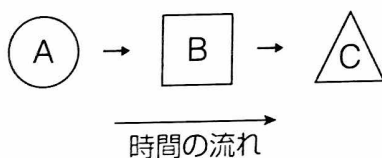
私たちの人格は、(A)→(B)→(C) …というように「ある一瞬が別の一瞬に置き換わるというようなもの」ではなく、(A)→(A+α)→(A+α+β) …というような、過去に新しいものが加わって新しい人格へと成長していく。この創造は予見できないという点で芸術創作のようでもある。この趣旨をまとめた③が適当。

①不適。「過去が刻々と変質する」のではなく、過去に新しいものが付け加わって次の瞬間に新しい人格へと成長していく。また資料文に「これまでに知覚されなかったものは、必然的に予見不可能である」とあるので、「これまでに知覚したことのない事柄をも想起できるようになる」という記述は不適。

②不適。①同様、未来の次の瞬間は「予見不可能」であるから、「未来を見通す」ことはできない。

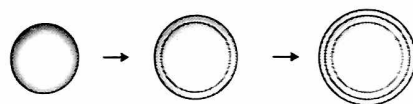
④不適。資料文は、人格の成長が創造性をもつことを芸術創作に喩えたものであり、実際の芸術制作について述べたものではない。

ある一瞬が別の一瞬に
置き換わるイメージ



ベルクソンの人格成長

過去に新しいものが加わって
現在の人格となる



心的状態は絶えず膨張し続ける

問8 36 正解は⑤

ハイデガーは人間の存在のあり方を次のように規定している。

現存在：存在の意味を問うことができる人間のあり方 →アは正しい

世界内存在：他者や物事との関係の中で生きる人間のあり方 →ウは正しい

イはサルトルの思想。それ自体で存在する本質を規定された事物を即自存在、自己を意識し、自分を新たに作っていくことのできる人間を対自存在と呼んだ。

問9 37 正解は④

本文は時間への問いを通して自分の生き方を見直すことを主題とした文章である。第3～5段落をまとめた④が正解となる。

近代科学は「予測に基づく物質的世界の制御」を可能にしたが(第2段落)、「科学的な考え方で人間の生を隈なく照らし出すことは難しい」(第3段落)とあり、科学的時間観の限界を指摘していることを読み取ろう。

- ①・②不適。①「私たち自身の生き方を、予測を踏まえ統御することを可能にした」、②「科学に基礎を求めるべき」という記述は本文の趣旨に反する。
③不適。「時間を惜しんで効率よく生きること」については触れられていない。